

日本共産党
3人で

みなさんとともに市政を動かし

くらしも平和も守ります



あきらめず、粘り強く願い届ける
気さくで身近な相談相手

いだ悦子

市議 6 期、党市会議員団長。子どもの医療費無料化の願いを届け続け、あきらめず追求。誰ひとり取り残さない市政の実現へ全力投球。

【生活相談担当地域】中舞鶴、北吸、浜、浮島、市場、愛宕、竜宮、泉源寺、森（白鳥街道七条までの北側）、祖母谷、駅南（北浜・片山・祭掛）、志楽、朝来・大浦



子どもたちに
安全で平和な舞鶴を

小西 洋

市議 2 期、党市会議員団幹事長。元小学校教諭 36 年。暮らし・教育から原発・平和まで幅広く議会論戦。「教え子を再び戦場に送らない」が政治信条。

【生活相談担当地域】中筋、高野、池内、伊佐津（大内南以南）、白鳥街道南側（白鳥、丸山、森日の出、愛宕、八反田）、行永、与保呂



一人ひとりに寄り添い
願い実現に全力

小杉 えつ子

市議 6 期。農業振興や医療・介護など社会保障の充実へ奮闘。障がい者をはじめ誰もが暮らしやすい街づくりの先頭に。

【生活相談担当地域】加佐全域、福井・青井、吉原、余内、明倫、引土

トマホーク配備反対
戦争アカン



敵基地攻撃の
舞鶴を最前線基地にさせない
自衛隊員も市民の命も全力で守ります

トマホークミサイルの配備、弾薬庫の増設、総監部の地下化……。舞鶴の海上自衛隊基地が、専守防衛から一歩も進み、舞鶴を攻撃する最前線基地へと大きく変えられようとしています。高市首相は、物価高に苦しむ国民そっちのけで、トランプ米大統領に言われるまま税金を湯水のごとく大軍拡につぎ込んでいます。しかも、日本を「戦争する国」に変える改憲まで宣言しています。

このままでは、くらしも平和も壊されてしまいます。憲法 9 条は、市民と自衛隊員の命を守る砦です。立場の違いをこえて「憲法守ろう」「戦争アカン」の一点で力を合わせましょう。日本共産党も全力で頑張ります。

市長

大軍拡・基地強化を容認

「強化は、舞鶴市民を守るための整備」

(2025年3月議会)

相手国からの反撃で、舞鶴が戦場になる可能性があります。政府も認めていることです。ところが鴨田市長は、基地強化についての住民説明会を国に求めることすら拒否しています。

市は「平和産業港湾都市」に基づくまちづくりを投げ捨ててしまえば、市民のくらしも平和も守れません。

高市政権へ
すり寄る現市政

市民を分断、効率優先の市政に意義あり！ くらし・なりわい最優先の舞鶴市に

の3
力議員
で員

住民運動と共産党議員団が繰り返し求めても、頑なに拒否してきた前市政と違い、子育て支援の願いには一定こたえる姿勢を示す現市政。しかしまちづくりの根幹にかかわる「平和と基地」「原発」では、国や京都府いいなりの態度です。

現市長は、大軍拡・基地強化容認のうえ「高市政権のすすめる『強い経済』は、まさに舞鶴のためのもの」(1月、商工会議所互礼会)と軍需産業応援の「富国強兵」路線を称賛。原発再稼働・

使用済み核燃料の保管計画も容認し、北陸新幹線延伸計画では「舞鶴ルート」の誘致に前のめりになってきました。

また「官から民へ」と、公的施設の管理業務の民間委託を推進。小中学校・社会福祉施設 111カ所 48 業務(廃棄物処理、消防設備点検など)を、この5年間 23 億円で民間に委託しました。

日本共産党は、災害時の対応など舞鶴市の行政能力の低下をまねくと反対しました。

医師・看護師の増員で 地域医療の再生を！

「東西2病院・急性期(救急など)機能を東に集約化」の公的4病院の再編統合を舞鶴市は推進。各病院では医師・看護師不足で困難な運営を強いられています。

日本共産党は、舞鶴市の公的責任の発揮と市民参加で、安心して暮らせる地域医療の体制を求めています。

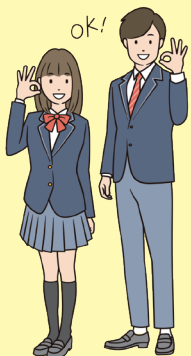
	●=反対 ○=賛成	日本共産党	他の議員
国保料値上げ 2026年度は8.5%アップ	4年連続の値上げに毎年反対 (2026年3月)	●	○
医療・介護労働者の 処遇改善求める意見書	人材確保へ報酬10%引き上げなどを国に求める (2025年12月)	○	●
赤レンガパーク整備 5億1,191万円	「不要不急の大型事業より市民生活を優先すべき」と反対 (2023年6月)	●	○
自衛隊増強、防衛産業の 基盤強化を求める決議	「舞鶴が戦場になる危険を高める」と反対(2023年9月)	●	○

「良いことは良い、悪いことは悪い」の立場で 市政動かす

●学校給食の無償化



10年前から議会のたびに求めてきた無償化が、府内で初めて中学校(2024年2学期から)で実現。小学校(2025年3学期から)にも広がり、物価高のなか大変喜ばれています。市長も「共産党議員のみなさんには常に背中を押していただき感謝」と答弁しました。



●18歳までの医療費「無料化」

共産党議員団は20年以上前から、中学校卒業まで通院も入院も医療費「無料化」を求めてきました。当初は保守系議員などから「甘えるな!」と反対されましたが、毎議会で粘り強く求めてきました。

京丹後市など「大学卒業まで無料」に踏み出した自治体もあり、安心して子育てできる舞鶴へいっそうの拡充をめざします。



市民と力あわせ
粘り強く実現!!

●水道料金の値上げストップ!

2024年度から13.5%もの大幅値上げがおこなわれようとしていることを暴露・追及。コロナ禍明け・物価高騰に苦しむ市民の実態を示して「値上げすべきでない」と主張しました。共産党だけが取り上げるなか、「値上げしない」との答弁を引き出しました。4年間で計8億円の市民負担を軽減したことになります。

その上、国の補助金利用などによる引き下げを提案。10カ月分(1世帯あたり6,400円)の無償化を実現しました。



「とことん生活応援を」と、物価高騰対策を鴨田市長に申し入れる共産党議員団(2025年12月)

●介護事業所の支援

国の訪問介護報酬引き下げにより、訪問介護から撤退する事業所が相次ぎました。施設から聞き取りをおこない、議会のたびに市からの財政支援・人材確保策を要求。「福祉人材未来プロジェクト事業」がスタートしました。人材確保に向け、介護職員さんへの奨励金支給で就労・継続を応援。

はっぴりものを言い
しっかり働く
日本共産党